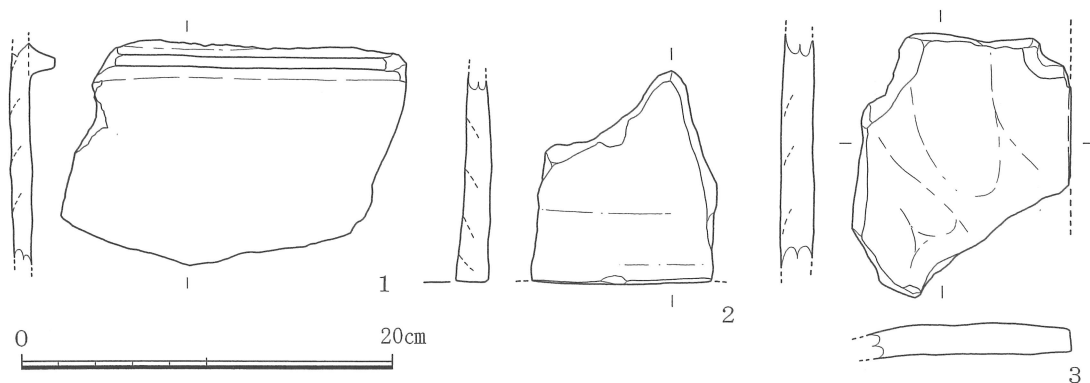




第40図 山辺道勾岡上陵 採集品実測図 (1/4)

なお、墳丘巡回中に埴輪片3点を採集したので、以下に報告しておきたい(第40図)。いずれも、これまでに本陵から出土し、当部保管となっている埴輪と同じ特徴をもつが、全体が摩滅しており、内外面ともに調整痕はほとんど確認できない。

1は前方部の現状3段目北側斜面で採集した、楕円筒埴輪胴部と考えられる破片である。幅が狭く突出度の高い突帯が確認できる。2は、1と同じく前方部3段目北側斜面で採集した楕円筒埴輪か円筒埴輪の底部と考えられる破片である。底部として図示したが、そうした場合、粘土紐接合痕の傾きが逆になることから、口縁部の可能性もある。3は前方部の現状4段目南側斜面で採集した埴輪片である。破片は平らな板状を呈し、円筒系の埴輪とは考えがたい。比較的器面の状態はよく、内外面指ナデ調整であったことが確認できる。形象埴輪の一部と考えられ、家形埴輪の屋根か壁の可能性があろう。(清喜裕二)

宣化天皇 身狭桃花鳥坂上陵見張所改築工事箇所の立会調査

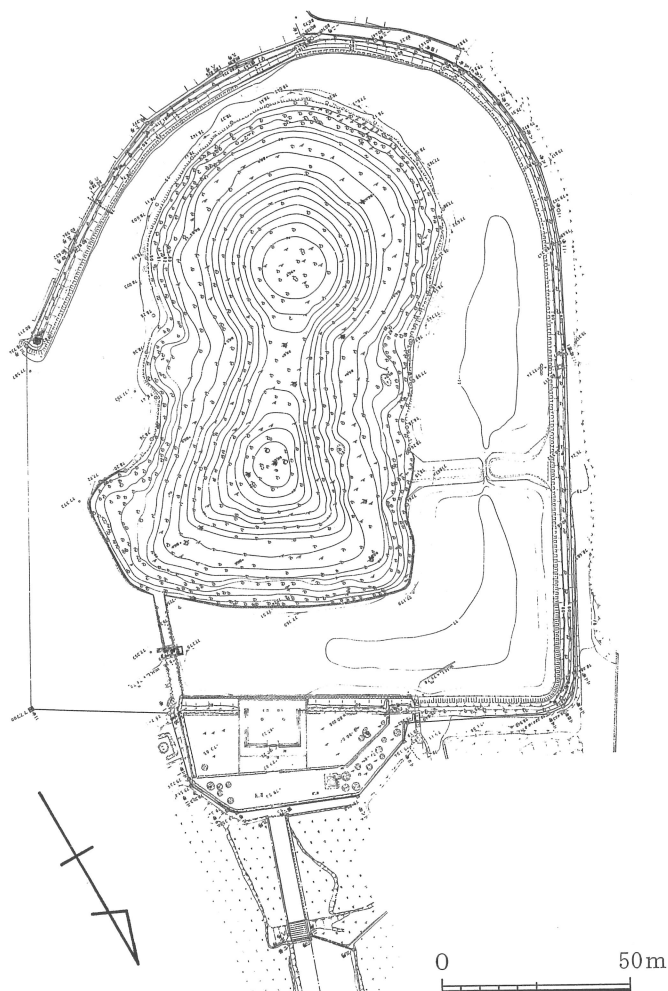
宣化天皇身狭桃花鳥坂上陵は、近鉄南大阪線橿原神宮西口駅から南へおよそ750m、奈良県橿原市鳥屋町に所在する。南南西-北北東方向に主軸を持つ2段築成の前方後円墳で、「鳥屋ミサンザイ古墳」とも呼ばれる。墳長138m、後円部径83m、同高17.7m、前方部幅78m、同長55m、同高18.6mとされ⁽¹⁾、両くびれ部に造出を持つ(第41図)。その立地から、越智岡丘陵から北東方向に派生した尾根を利用して築造されたと考えられる。前方部前面である北側には縄文時代後期の遺物散布地である鳥屋遺跡が、谷を隔てた西側丘陵上には弥生時代中期から後期の集落である千塚山遺跡および群集墳として名高い国指定史跡新沢千塚古墳群が所在し、後円部南側の丘陵上にも新沢千塚古墳群の一支群がある。そのさらに南側には倭彦命身狭桃花鳥坂墓である「桝山古墳」が所在している⁽²⁾。

本陵に関わる調査事例としては、昭和45年度実施の墳丘裾護岸など整備工事の事前調査、昭和51年度実施の外堤止水壁設置区域の事前調査、昭和61年度実施の鳥居改修工事箇所の立会調査、平成2年度実施の外堤護岸など整備工事箇所の事前調査、平成13年度実施の樋管改修工事箇所の立会調査などがある⁽³⁾。

今回の調査は、一般拝所内に所在した見張所が経年のため老朽化し改築されることになったために行ったものである。見張所改築箇所(長さ6.0m×幅4.5m×深さ0.4m)のほか、浄化槽

設置箇所（長さ 3.2 m × 幅 1.8 m × 深さ 1.9 m）や、排水管設置箇所（長さ約 20 m × 幅 0.7 ～ 0.9 m × 深さ 0.4 m）、電気線設置箇所（長さ約 22 m × 幅 0.8 m × 深さ 0.3 ～ 0.8 m）、門扉設置箇所（長さ 0.5 m × 幅 0.5 m × 深さ 0.7 m × 2 箇所）など、付帯施設に関連する掘削があった（第 42 図）。調査期間は平成 15 年 11 月 25 日～ 28 日の 4 日間である。

掘削箇所における土層は 3 層に大別される（第 43 図）。Ⅰ層としたものは拝所に敷かれた白砂などを含む表土層で、Ⅱ層としたものは拝所を造成した際の客土と思われる土層である。砂質土と粘質土を薄く広範囲に積んだ状況を示す。Ⅲ層としたものは現在の外堤本体を構成する土層と思われる。上半は茶褐色系の粘質土を主体とし、下半は赤褐色系の粘質土である。



第41図 身狭桃花鳥坂上陵 地形図（1/2000）

標高 73 m 付近で茶褐色系から赤褐色系に変移するので、工程差もしくは時期差を想定できるかも知れない。Ⅳ層は地山で、風化した花崗岩の岩盤およびそれを起源とするバイラン土を主体とする。

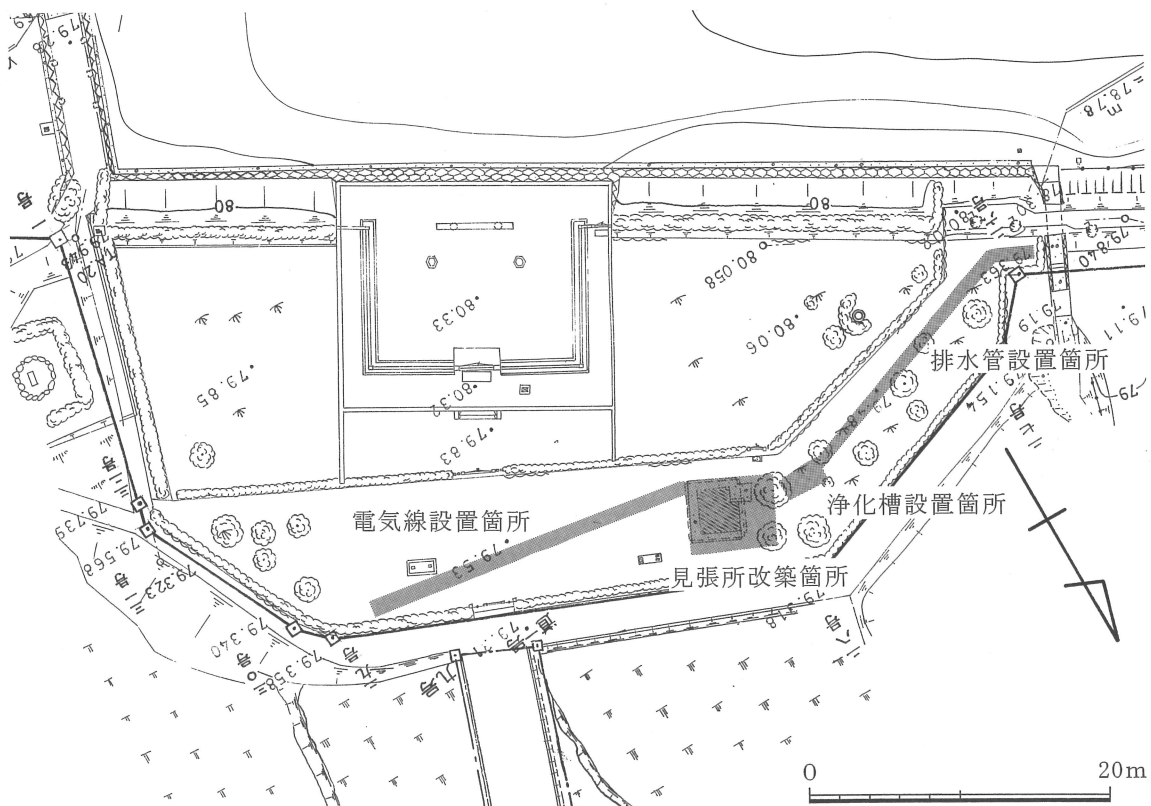
Ⅲ層内からは埴輪片が出土している（第 44 図）。摩滅した小片であるが、突帯の残るものは断面が低平な M 字形をなし、外面調整を観察できるものはタテハケもしくはナナメハケである。いずれも赤橙色を呈する埴質で、胎土に径 3 mm 以下の砂礫が目立つ。これらの特徴は従前の調査で本陵より出土しているものの一部に一致する。しかし、埴輪列などの遺構の存在を示唆するような集中的な出土ではなく、土層内に散漫に分布している状況であり、本陵に帰属するものであるのか否かの判断は保留しておく。

地山まで達した浄化槽設置箇所以外の部分の掘削はⅢ層上部でとどまった。

遺構の出土はなく、これらの結果を踏まえ工事は予定通りに施工された。（有馬 伸）

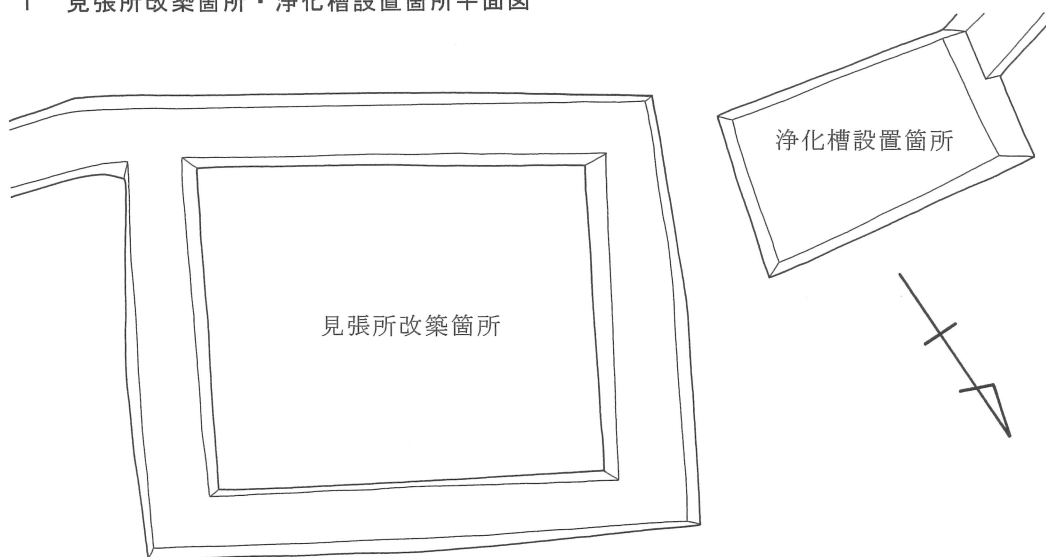
註

- （1） 山田幸弘「見三才古墳」近藤義郎編『前方後円墳集成』近畿編、山川出版社、1992 年。
- （2） 橿原市教育委員会編『橿原市遺跡地図』、1999 年。

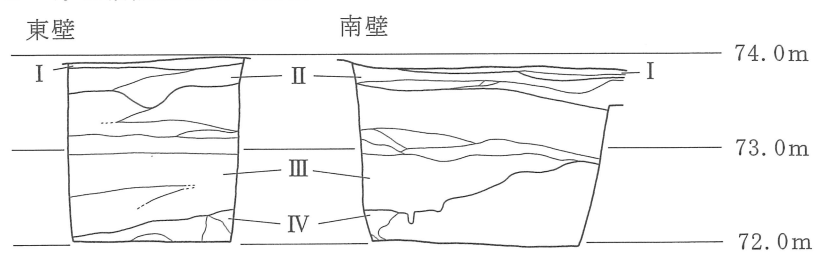


第42図 身狭桃花鳥坂上陵 調査箇所位置図 (1/500)

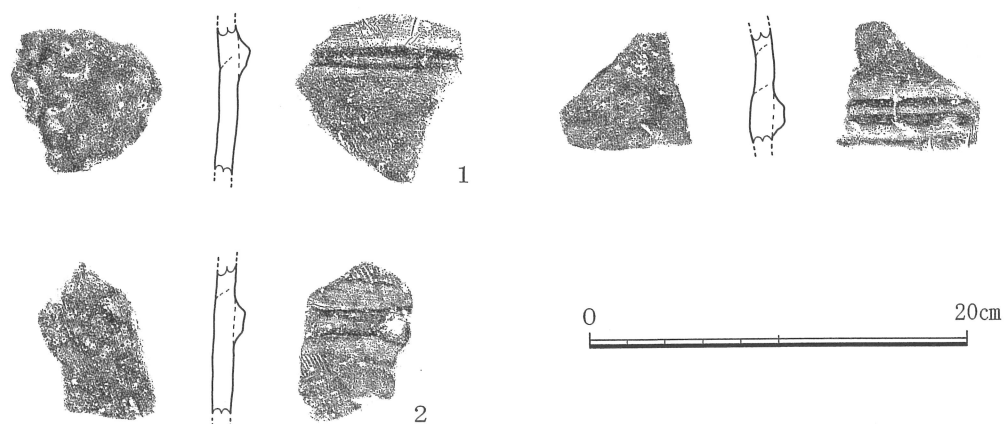
1 見張所改築箇所・浄化槽設置箇所平面図



2 浄化槽設置箇所断面図



第43図 身狭桃花鳥坂上陵 調査箇所平面図および断面図 (1/80)



第44図 身狭桃花鳥坂上陵 出土品実測図 (1/4)

奈良県立橿原考古学研究所編『奈良県遺跡地図』第2分冊改訂、奈良県教育委員会、1984年。

- (3) 笠野 毅「昭和45年度 身狭桃花鳥坂上陵整備工事に伴う事前調査」『書陵部紀要』第41号、宮内庁書陵部、1990年。

笠野 毅「宣化天皇陵外堤止水壁設置区域の事前調査」『書陵部紀要』第29号、宮内庁書陵部、1978年。

飯倉晴武「調査の全容」『書陵部紀要』第39号、宮内庁書陵部、1988年。

土生田純之・福尾正彦「身狭桃花鳥坂上陵整備工事箇所調査」『書陵部紀要』第41号、宮内庁書陵部、1990年。

陵墓調査室「調査の概要」『書陵部紀要』第53号、宮内庁書陵部、2002年。

懿徳天皇 畝傍山南織沙溪上陵見張所改築工事箇所の立会調査

懿徳天皇畝傍山南織沙溪上陵は奈良県橿原市西池尻町に所在する。近鉄南大阪線橿原神宮西口駅から北へ200mほど行った畝傍山の南麓に位置し、形状は山形である(第45図)。畝傍山から南方に派生した丘陵の先端部を利用したものと思われるが、畝傍山と本陵とは尾根続きではなく、本陵は独立した頂部を持っている。畝傍山と本陵との間の凹部が当初からの地形であるのか、あるいはいずれかの段階で人為的に切り離されたものであるのかについては、地形図や現地における観察だけでは判断し難い。陵本体側の等高線は人為的に切り離されたものとは見えず、仮に切り離しが行われているのであるならば、盛土もしくは削り出しによって大規模な修景が行われていることになろう。なお、本陵の所在地はいわゆる大藤原京内に含まれ、右京十条九坊西北坪および西南坪を中心とする箇所にあたる⁽¹⁾。

本陵における過去の調査事例としては平成11年度に実施した鳥居改築工事箇所の立会調査がある⁽²⁾。

今回の調査は一般拝所内に所在した見張所が経年のため老朽化し、改築されることになったため行ったものである。見張所改築箇所(長さ5.3m×幅5.0m×深さ0.3～0.4m)以外にも、浄化槽設置箇所(長さ3.2m×幅3.0m×深さ2.0m)や、排水管ほかの設置箇所(長さ約51m×